

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2008.9

21

飛鳥山3つの博物館10周年秋期企画展

名所を愉しむための7つのレッスン ：江戸名所図会の世界展

Seven lessons to enjoy a noted place:Exhibition of Edo-Meisho-Zue

会 期：2008年10月25日(土)～12月7日(日)
会 場：特別展示室・ホワイト
開館時間：午前10時～午後5時
休 館 日：毎週月曜日(ただし11/3・11/24は開館)、
11/4(火)、11/25(火)

観覧無料



「江戸名所図会」より「道灌山聴虫」の場面

名所を愉しむための7つのレッスン ：江戸名所図会の世界展

Seven lessons to enjoy a noted place:Exhibition of Edo-Meisho-Zue

観覧
無料

現在、世界各国で環境の激変による気候変動が懸念され、地球環境に優しい社会をめざしてグローバルな取り組みが行われています。まさに環境は今日的な課題となっています。

その一方で、かつての江戸とその周辺は当時世界最大の人口を有しながらも、緑豊かな名所に彩られた都市景観を保っていました。

これらの江戸各地の名所を紹介する『江戸名所図会』は、神田雉子町の町名主、斎藤幸雄・幸孝・幸成の三代にわたる約40年の歳月を費やす編さん活動によって、今から約170年前前に出版されました。7巻20冊に及ぶ大部な『江戸名所図会』は、実地踏査にもとづく考証の確かな記述とともに、絵師・長谷川雪旦の精妙な挿し絵の魅力もあいまって江戸の読書世界に歓迎され、やがて全国各地にひろまるだけでなく、遠く海外にまで江戸の賑わいを伝えました。

本展では持続可能な環境に配慮した江戸の都市に息づく名所の姿を、約90点の資料からお示しして、身近な環境風土の重要性、景観の魅力についてご紹介します。

ぜひご観覧ください。

《関連イベント》

1. 企画展講演会：「江戸図の魅力」

日時：11月2日(日) 午後1時30分～午後3時

会場：当館 講堂

講師：小澤 弘氏（東京都江戸東京博物館教授）

2. 講座：「環境・風土・名所 江戸名所図会の世界」

日時：11月23日(日) 午後1時30分～午後3時

会場：当館 講堂

講師：当館学芸員

3. 講座：「環境の再発見・外国人の見た北区の名所」

日時：12月7日(日) 午後1時30分～午後3時

会場：当館 講堂

講師：当館学芸員

★参加費：無料

★定員：各80名

★応募方法：ご希望のイベント1件につき1枚の往復はがきでお申し込みください。

★締切：10月24日(金) 必着

ぼいす

当館では毎年夏に多数親子向け講座を開催しているが、今回はその中で今年初めて企画した「ずぼんぼ作り」を紹介する。講座を開くにあたり、低学年も参加可能であり、郷土に関心を喚起させるものを条件にした。そこで思っていたのが本玩具。ずぼんぼとは近世から江戸・東京で伝承されてきた紙製の獅子舞の玩具で、『うなぬの友』（郷土玩具の本で当館収蔵）にも掲載されている。屏風をめぐる中で団扇をあおぎ、浮き上がった姿を楽しむものだ。

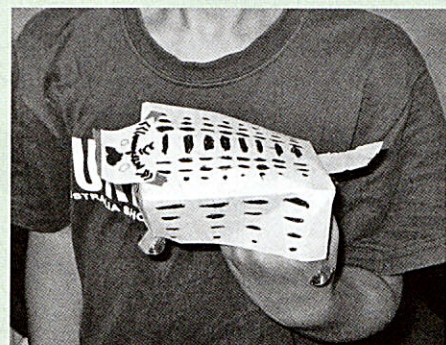
準備段階では、素材選びと試作・所要時間の計測を行い、参加者がスムーズに取り組めるよう細心の注意を払う。更に演示はずぼんぼの最大の魅力である不思議な躍動感をどのような感動をもって伝えられるかに眼目を置いた。

当日は、初めから動く姿は見せず、期待感を持たせながら製作に入った。一生懸命作った後に実際にあおぎ、くると舞い上がると参加者は大喜び。一体感も高まり、全員で楽しむことができた。アンケートでは、「郷土玩具に興味を持った。他にどのようなものがあるのか知りたい。」「素朴な玩具にもこれほどの魅力があると感動し

博物館工作教室の意義

た。」というコメントがあった。

博物館における工作教室の意義を考える時、ただ作って帰るといった行為だけではなく、作るにより資料を理解し、そのまま歴史を体感出来ることが強みである。数時間の思い出だが、工作教室を通じて地域や歴史を知り、興味を持っていただけたなら有難いことである。そしてその楽しさをダイレクトに伝えられるよう、学芸員のアイデアと準備の格闘は日々続くのである。（綾）



完成したずぼんぼ

ブログ風“旅”のあれこれ

～正岡子規「王子紀行」にふれて

中野 守久 (当館学芸員)

35年ほど前に「さよなら・今日は」というTVドラマがあった。主人公は浅丘ルリ子・中野良子・栗田ひろみが演じる三姉妹。脇は山村聡・山口崇・林隆三・緒方拳・原田良雄・原田大二郎・大原麗子など錚々たる顔ぶれであった。舞台になったのは新宿区下落合の高台に建つ洋館で、出演者たちが周辺の御留山公園・氷川神社・妙正寺川・西武線下落合駅などに出没し、相馬坂・七曲坂など急坂が多いこの町を行き来するシーンが見られた。今から思えば、番組では武蔵野台地・豊島台の地勢が巧みに撮り込まれていたようだ。当時中学生であったが、妙に旅情を誘われた。映像を通して副都心近くの地勢に惹かれ、その後本郷台へ関心が向かう契機となった。

それはさておき、話は急転して恐縮だが、明治27年(1894)に正岡子規が新聞『日本』に著した「王子紀行」は小編ながら味わい深い随筆である。その年の8月13日の午後俳人で同郷の内藤鳴雪が王子の祭礼見物を誘いに子規庵を訪れ、画家中村不折をともない3人で出かけた際の話が書かれている。少し紹介したい。一行は広小路の豆腐料理屋忍川で夕飯を済ませ汽車で上野から王子へ行く。まずは王子権現へおもむくのだが、肝心の田楽がやっていない。茶店で今日は無いと言われ、「田楽見ぬも亦風流なり」と強がりを行い急遽滝野川見物へ趣向を変えてしまう。どうも到着した時間が遅く田楽が終演していることに気付かなかったようだ。すでに人影はなく蝉しぐれが響く音無溪谷の岸辺で不折は洞窟の前に佇み数枚の絵を描く。その後一行は本格的に茶店に上がり寛いだ。あたりは夕闇に包まれ樹間に月が姿を現している。子規と鳴雪は俳句談議で数時間を過ごし、不折はただ一人黙々と絵を描き続ける。夜もすっかり更けた頃、汽車はとっくに終わっているため徒歩で戻ることにな

り、帰路を飛鳥山下に定めて一行は低地に下りてゆく。根岸へと続く音無川(下郷用水)沿いの路の途中で小さな祠を見つけ暫し休憩、絵画談義に花を咲かせる。不折はこの周囲には遠近に画作に適した風景が多いことを称賛するのであった(以下略)。

実にのんびりとした話であるが、当時の本郷台における行楽の様子が良く記されている。まだ電話も時計も普及していない明治中期。インテリといえども、自らの行動予定は太陽と月と体内時計で決めていた。乗物が無ければ、歩いてどこまでも行くのである。本来そこにあつて然るべき地物を受容することは決して不便なことではなく日常的事であった。自ら歩けば、距離感も掴めその土地の性状がよく分かる。坂道を介して土地の起伏が実感できるし、川べりを辿れば、上流下流の違いも知ることができる。旅の面白さも1つにはそうしたことから生まれるのだろう。現在東京では多くの橋やエスカレーターなどが設けられているが、あまり過ぎると折角の探訪も興味半減ではないかと余計な心配をしている。



「王子紀行」に添えられた不折の絵
出典：講談社刊「子規全集」第13巻、1976年

クローズアップ

浮間

荒川と新河岸川に挟まれた町、浮間。板橋区と埼玉県戸田市と接している「区境・県境」の町でもあります。浮間は元々、埼玉県横曽根村に属していました。しかし、大正年間に河川改修により荒川本流が短絡化されると村が分断された形となり、埼玉県とのつながりよりも当時の東京府との結びつきが強くなりました。そこで大正15年に東京府に編入されたのです。このような歴史を持つ浮間ですが、このところ高層住宅が多く建つようになり、様変わりしつつあります。でも、町を歩けば浮間を特徴付ける歴史的な要素がそこかしこに見られます。今でも“昔”が息づく町、浮間にクローズアップ!

桜草今昔物語

かつて「浮間が原」と呼ばれたこの地は、江戸の頃から桜草で名の知れた春の行楽地でした。大正期には田山花袋が「毛氈でも敷いたようである。」とまで綴っているほど、野生の桜草が広がっていて、その情景を一目見ようと各地から見物客が訪れたそうです。そんな桜草を絶滅の危機に追いやったのが乱獲と環境変化です。有名になったが故に人々はむやみに持ち去り、また、荒川の河川改修や壁土用の採土によって、桜草は次第に姿を消していったのです。しかし、桜草は復活しました。戦後、数少なくなった桜草を圃場に移植し、人々の手によって保護され、その数を増やしていったのです。浮間いっぱいにはいきませんが、今でも春になると浮間ヶ池のすぐ側で、小さな花をしっかりと咲かせています。(野)



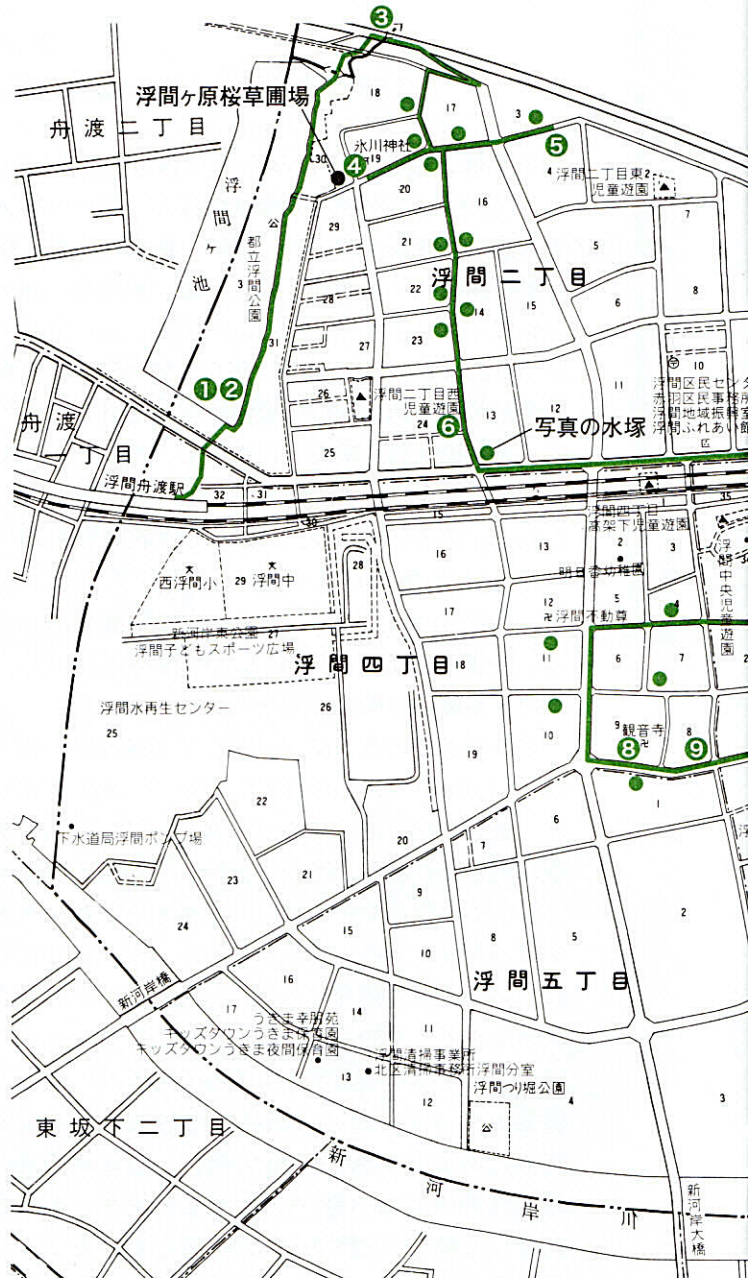
かれんな花、桜草

町に残る水害の記憶—水塚—

浮間はその昔、台風などで大雨が降り、荒川がひとたび氾濫するとその被害に見舞われました。そこで、浮間に住む人々は周囲よりも高く土を盛り、その上に家を建てました。このような造りを水塚といい、洪水がおきても浸水しないようになっています。それでも水が押し寄せてきたら梯子で天井裏に上れるようになっていました。また、物置には水害時に備えた舟が吊るされており、階上は水が引くまで一時的に生活できるスペースでもあります。浮間の町を歩くと、今でも周りよりも一段高く築かれた塚上の高まりが見受けられます。荒川の改修工事のおかげで洪水の危険がなくなったこともあり、人々の記憶の中で水害は薄らいでいますが、この高まりは先人の工夫と水害の記憶の語り部のように思えます。(村)



塚の上に建てられた納屋



浮間探検隊が行く!



かつての荒川本流の名残、浮間ヶ池



休日の午後の太公望



土手の下は赤羽ゴルフ場



浮間の鎮守、氷川神社



信仰の厚い、北向地蔵



傘屋庚申、傘屋は

開館10周年記念企画展と3館合同イベント

おかげさまで当館と紙の博物館・渋沢史料館は、今年で開館10周年を迎えました。そこで、この春の10周年記念企画展の開催にともない、「飛鳥山3つの博物館」として積極的に合同イベントを行いました。

中心となる企画展については、「王子・飛鳥山」を共通テーマとして掲げ、互いの特色を活かす内容を心がけました。その結果、当館は「名所の誕生～飛鳥山で読み解く名所プロデュース」、紙の博物館は「近代製紙産業と王子」、渋沢史料館は「王子・滝野川と渋沢栄一―住まい、公の場、地域―」と、王子・飛鳥山の歴史・文化を多彩な視点からご紹介する企画展が揃いました。

合同イベントとしては、3つの企画展を通してご覧いただきたいと、リレー形式で3館をまわる展示解説「企画展ミュージアム・トーク」を期間中3回おこないました。各館が異なる視点からご説明するため、新しい発見が多かったという参加者の声が多く聞かれました。

また、史跡めぐり「学芸員と歩く王子・飛鳥山の歴史と産業」も合同で実施しました。飛鳥山から醸造試験所跡地や印刷局の資料室、一里塚などを約3時間かけて巡り、各

所で3館の学芸員が分担して解説をおこないました。担当者としても単独開催にはない内容の広がりや視点の深さを実感し、大いに刺激を受けました。

これまで、ありそうでなかった3館合同イベントですが、10周年をきっかけとして「1回で3倍おいしい」企画が実現しました。今年末まで10周年合同企画を続々と実施しますので、この春迷った方もぜひご参加ください。(K)



企画展ミュージアム・トークの様子

「昭和三十二年 発掘現場から」

写真にみる
あの日
あの時

スコップを持った人、シャベルを持った人、様々な人が写っていますが、これはいったい何の場面を撮影したものなのでしょう。

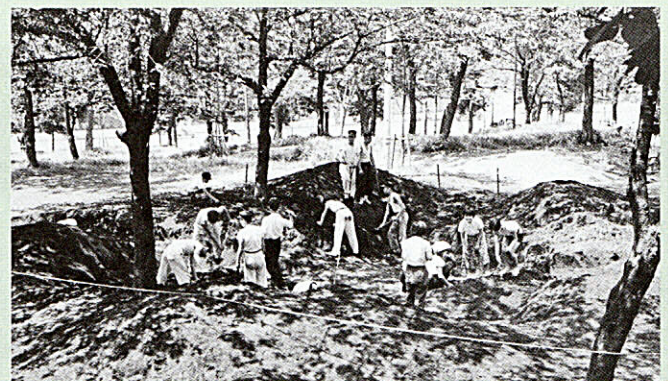
実は、学生による発掘調査の風景を写しとったものなのです。枠外に「王子工業高校生徒たちの発掘作業風景（アスカ山公園内）」と書かれたこの写真は、平成に入ってからの大規模調査が行われる以前の、飛鳥山遺跡の発掘調査を撮影した貴重な1枚です。

調査の指導にあっていた吉田格氏の報告によると、この調査は、昭和32年7月に、社会科の研究の一環として行われたといえます。この場所が飛鳥山公園内のどこなのか、長らく不明とされてきましたが、平成8・9年度の調査により、現在の児童公園内SL付近であったことが明らかとなりました。今では綺麗に舗装されているこの場所も、当時はこんなに緑が生い茂る場所でした。

写真の中の生徒の表情はみな生き生きとしており、今にも声が聞こえてきそうです。土を掘り上げている様子や、

地面を指差して何かをみつけたかのような姿。みな懸命に取り組んでいます。ある生徒はおしりも真っ黒になってしまいう程度です。この地点からは、弥生時代中期の竪穴住居址やたくさんの土器・石器が発見されています。

作業に打ちこむ生徒の風貌は、現在の高校生とは異なります。しかし、何かに一発懸命に取り組むその姿は、いつの時代も変わらないものといえるでしょう。(O)



もっと知りたい!
ちょっと気になるこの一品

常設展示

種物音頭

♪ハアーあの娘可愛いやニンジン姿〜♪と、当館の常設展示「東京近郊の野菜と種苗」のコーナーに時折明るい音頭の一節が流れます。この曲「種物音頭」は、滝野川の種子屋を中心とする東京種子同業組合が、昭和11年(1936)に開催した「種子祭」を記念して製作したものです。

実は、この曲には振りもつけられています。振付を担当したのは林流初代家元「林きむ子」。明治末頃から大正初めには、田端の高台にあった「蛇御殿」に住む美貌の代議士夫人「日向きむ子」として知られていました。大正8年(1919)、滝野川と隣接する西巣鴨の庚申塚に移り住んでからは舞踊家として活動をはじめ、田端で生まれた児童文芸雑誌『金の星』にも童謡舞踊を発表しています。「種物音頭」振付の背景には、彼女と滝野川周辺の土地との浅からぬ縁が感じられます。(K)

レコード「種物音頭」付属説明書より振付け写真(部分)

姿四十第
ヤ



右足を後方に戻して
右手を元に戻して
第十二姿と同じ

姿三十第
ジフ



右足を前方に進め
右手を後方に

姿二十第
ハマヤ



一周したら進む方向に
身體の向きを定め
両手を前の上方で指先を接す

姿一十第
ーハ



地につけた右足の足先で立ち
圖の如くし右廻りに
ハアの間一周廻轉す
手の平が上にならぬ様注意する

姿十第

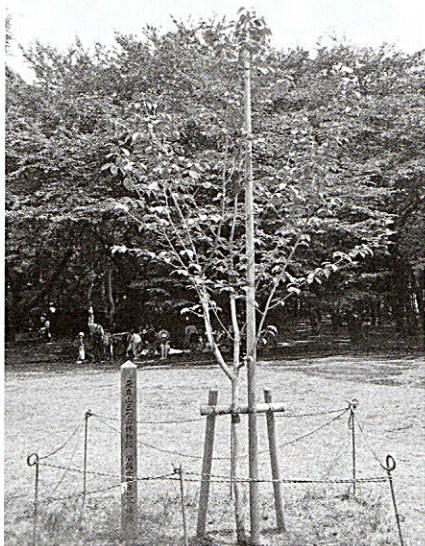


第四と同じく
左足の前より
右足を進む方向へ伸ばし
地につける

博物館インフォメーション

●開館10周年記念日に 徳川様によるお手植えの桜!

当館正面玄関前にある飛鳥山公園広場にて、本年3月27日の開館記念日に記念イベントが開かれました。江戸



時代8代将軍吉宗の桜の植樹によって開かれた飛鳥山園地の故実にちなみ、徳川宗家当主の恒孝氏をご招待して、時代を超えた植樹式を挙りました。当日は桜満開の中、区長・渋沢記念財

団理事長・紙の博物館理事長とともに自らスコップを使われ江戸時代の花見の代表種であったヤマザクラの幼樹を植えていただきました。現在ヤマザクラは陽光を十分に浴びて青葉をつけ、すくすくと育っています。

●人物往来

今年の3月31日をもちまして、平成15年4月より勤務していただいた博物館調査員の古屋紀之さんが無事に任期を全うし退職しました。後任として大塚由利子さんが新たに着任しました。今後講座等でお目にかかることがあると思いますが、宜しくお願いします。

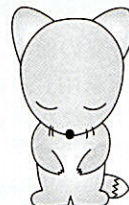


●今年も実習生が活躍しました!

7月29日から8月10日までの2週間学芸員資格取得を目指す3名の大学生が実習生として来館しました。「夏休みわくわくミュージアム」の各種アシスタントや野外での取材など若いエネルギーを大いにぶつけて活動してくれました。その成果の一部は今号の記事「クローズアップ浮間」に掲載してあります。実習生の皆さん、暑い中お疲れさまでした。

●博物館資料の情報を お寄せください!

当館では赤羽・王子・滝野川といった現在の北区域内で使われていた生活用具・古文書・古写真など当時の暮らしが分かる様々な資料を常時探しています。心当たりのある方は是非博物館(03-3916-1133)までご連絡ください。



湧

き上がる
歓喜の声に
頬ゆるむ

学芸員リレーエッセイ

博物館いるは歌留多

一部で「夏のわくわく、冬のフムフム」とも呼ばれるように、当館では夏と冬に2大子ども向け事業を展開しています。今年も7月21日から8月31日までの約40日間にわたって、そのうちの一つ「夏休みわくわくミュージアム★2008」を開催しました。

4月に着任したばかりの私には初めてのことばかり。「少しでも去年と違うことがしたい!」「子どもたちが毎日通いたくなるような博物館にしたい!」あふれ出る野望と、まだ見ぬ子どもたちの反応への不安とがせめぎあう中での準備期間でしたが、各コーナー初日から大盛況!中には本当に毎日通ってきてくれる姉弟も見受けられました。初めは緊張してこわばっていた私の顔も、子どもたちの凄まじい集中力や、「できたよー」「わかったよー」などの満面の笑みにつられて、いつのまにか“にっこにご”。不安はすべてが杞憂に終わり、ひと安心といったところです。

子どもたちの学習意欲の著しい低下が叫ばれる昨今、博物館の存在が、また私たち学芸員の存在が、子どもたちの学習意欲の向上に一役買えるよう、これからも日々努力してまいります。よーし!次は冬のフムフム(「来て、見て、さわって!昔の道具」)だ!!(〇)

利用のご案内

【開館時間】

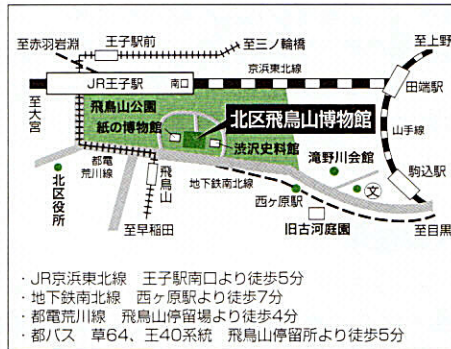
午前10時から午後5時
(有料の展示室への入場は午後4時30分まで)

【休館日】

- 毎週月曜日(国民の休日・振替休日の場合は開館)
- 国民の休日および振替休日の翌日(土曜・日曜日の場合は開館)
- 年末年始(12月28日～1月4日)
このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	240円



- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。

平成20年度下半期の主な催し物

秋 9～11月

- 特別展覧会「第7回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(9/13～10/13)
- ミュージアム・トーク展示をもっと楽しもう!(9/14、10/12、11/9)
- 講座「王子が生んだ女形・王子路考とその生涯」(9/21)
- 講座「実践考古学講座一考古資料を調べる」(10/11、18、25、11/1)
- 講座「巡礼六阿弥陀」(10/19、26)
- 秋期企画展「名所を愉しむための7つのレッスン:江戸名所図会の世界」(10/25～12/7)
- 企画展講演会「江戸図の魅力」(11/2)
- 野外講座「秋の王子・飛鳥山の歴史散歩」(11/8)
- 開館10周年記念講演会(11/22)
- 講座「紅葉の文化～滝野川を中心に」(11/29、12/13)

冬 12～3月

- 野外講座「幻の江戸野菜・小松菜の産地を探る」(12/5)
 - 講座「環境の再発見・外国人の見た北区の名所」(12/7)
 - ミュージアム・トーク展示をもっと楽しもう!(12/14、1/11、2/8)
 - 小学校・中学年対応事業「来て、見て、さわって!昔の道具」(1/10～2/28)
 - 講座「第16回新聞から読む考古学2008」(1/31)
 - 講座「第2回考古学体験講座 古代の技術をさぐる一勾玉をつくる」(2/21)
 - 講座「民話に親しむ一八尾比丘尼編一」(3/7)
 - 野外講座「第8回あるけおろじー 古代の道をたどる」(未定)
 - 春期企画展「赤羽台の環濠集落」(3/17～5/10)
- ※催し物名は仮称、()内の実施日は予定です。詳細は当館発行の「催し物案内」、北区ニュース、北区HPをご覧ください。

お知らせ

■文化の日は観覧無料となります!

11月3日(祝)は常設展示室を無料でご覧いただけます。この機会にぜひご覧ください。

■コミバス1日乗車券利用の方に特典!

コミュニティバスの1日乗車券をご利用される方は常設展観覧料が2割引になります。受付にてお示しください。

■年末年始の休館日

平成20年12月28日～平成21年1月5日

編集後記

今夏の前半は昨年同様強烈な猛暑でした。旧盆を過ぎると、後に「平成20年8月末豪雨」と命名されたように全国的に大雨落雷が頻繁となり異常気象を思わせる日々が続きました。当館でも開館以降初めて停電を経験しました。

さて、今年ちょうど開館10周年にあたります。本誌が当館と利用者の皆様との架け橋の1つとなるよう、館員一同新たな気持ちで取り組み、誠心誠意尽くしていく覚悟です。今後も何卒ご声援の程宜しくお願い申し上げます。(守)

北区飛鳥山博物館だより

ばいす 21

発行 平成20年9月20日
 編集 北区飛鳥山博物館
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
 TEL.03-3916-1133
 発行 東京都北区教育委員会
 〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1
 TEL.03-3908-1111(代)
 印刷 川口印刷工業株式会社